

※水色と黄色のセルは回答必須。薄緑色セルは任意。申請書の段階から項目3に変更があった場合、直接入力の上書きして下さい。

(一財)全国地域情報化推進協会 御中 報告日 2019年9月27日

派遣決定番号

## 地域情報化アドバイザー制度活用報告書(3日目)

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

### 1. 申請団体情報

#### 1-1. 申請団体

団体名	亀岡市	代表者名	桂川 孝裕
担当者部署	企画管理部	連絡先電話番号	0771-25-5006
担当者役職		担当者氏名	
住所	621-8501 京都府亀岡市安町野々神8番地		

#### 1-2. 推薦団体(「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力)

### 2. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	中山 健太
評価	大変よい
上記評価の理由(どのようなところがよかったか等詳細に)	RPA本格導入に向けた検討会メンバーのみならず、職員全体がRPAなどのICTを有効活用した業務改革を推進できるような、気づきや発見をすることができた。 総務省の平成29年度業務改革モデルプロジェクトや、平成30年度の宇城市RPA導入開発支援業務委託など、本市でも参考になる助言を受けることができた。
アドバイザーへの要望事項	本取組はRPAなどのICTを効果的に活用して、BPRを実践できる職員の育成も目指しており、まだまだ解決しなければならない課題も多いので、引き続き支援を受けたい。

### 3. 地域情報化アドバイザー派遣実績

	派遣日	開始時刻	終了時刻	内休憩時間(分)	活動時間(分)
3-1. 活動	2019年9月20日	12時00分	16時30分		270
3-2. 派遣場所	会場名	庁舎内会議室		最寄駅	JR亀岡駅
	所在地	京都府亀岡市安町野々神8番地 亀岡市役所庁舎			
	最寄駅からの交通手段	徒歩15分(バス「亀岡駅」から「市役所前」)			

### 4. 報告書に関するAPPLICホームページへの掲載許可

掲載許可	<input checked="" type="checkbox"/> 掲載可
------	---

### 5. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

5-1. 支援を受けた対象者	属性(職員、一般、企業等)について【自由記述】	人数
	本市職員・京都府職員(1名)・木津川市職員(1名)	45人
5-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果		
事業の課題・問題点(具体的にご記入下さい)	RPAを有効活用した行政事務の効率化を職員に浸透させるためには、持続可能なRPA運用のための共通のルールや、体制を整備する必要がある。	
支援により目指す成果(具体的にご記入下さい)	持続可能なRPA運用のため、全庁的な共通ルールを定めた職員向け「RPA運用マニュアル」を策定する。	
アドバイザーに支援を受けた内容(具体的にご記入下さい)	RPAなどのICTを有効活用した行政事務の効率化を、全職員まで浸透させるためのフォローアップとして、RPAを活用した業務改革に係る職員説明会を実施した。 RPAを適用する業務選定にあたって、業務棚卸し等に関する課題等に対して、助言を受けることができた。	
支援を受け改善又は解決された内容(具体的にご記入下さい)	総務省の平成29年度業務改革モデルプロジェクトや、平成30年度の宇城市RPA導入開発支援業務委託など、本市でも参考になる助言を受けることができた。	
具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。	⑥途中段階であり、具体的な成果物はできていない
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容(具体的にご記入ください)	持続可能なRPA運用のため、RPA本格導入に向けた検討会などにより、全庁的な共通ルールを定めた職員向け「RPA運用マニュアル」を策定する必要がある。 RPAなどのICTを効果的に活用して、職員全体が業務改革を推進できるような体制を整備する必要がある。	
アンケートの内容と分析結果	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。(EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。) アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。 職員説明会を通じてRPAなどのICTを有効活用した業務改革に関する理解度を深め、各業務所管課からのRPA適用業務の提案などにより、効果の分析評価が確認できるため。	
5-3. 今後の計画	最も当てはまるものをリストより選択下さい	④予算以外で、今後取組む事項がある
事業の最終的な目指す姿	RPAやAIなどのICTを有効活用した業務効率化に関する職員理解の浸透を図り、BPRを実践できる職員の育成を目指す。	

6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真（JPEG）」を次ページに数枚程度貼り付けて下さい。

